



## HIGA 文化講演会 「日本のここがおもしろいー通訳ガイドよもやま話」

貢藤 悦子 (英語会員)



会場の様子

通訳ガイド歴30年の古谷章子さんは、私たち通訳ガイド協会の大先輩でもある。この協会に私が入ってからもう3年近くになるが、初めてお話を聞かせていただく機会であり興味津々であった。

まず多くのガイド仲間からの質問に答えて、ガイドにとって一番大切なことは、人の心を自分にひきつける事と言われた。特に自己紹介でお客様の関心を惹きつけることはとても大事だそうだ。ジョークを駆使し笑いをとる。そうすると後が楽に流れるのだそうだ。

自身の経歴に触れられ、2人目のお子さんを出産され、その一年後の昭和53年に通訳ガイド試験に合格。JTBからの誘いの電話がかかり快諾され仕事を始められた。そして一年後にはサンライズツアーのガイドを始められた。サンライズツアーは現在、広島・宮

島を一日目、倉敷美観地区・後楽園を二日目の訪問箇所として、週4回催行されている。

広島城、別名「鯉城」の説明では、欧米と違って「鯉」は中国、日本の文化では強さを表すシンボルであるというところまで話題を広げ、自信を持って話されているとのこと。

サンライズツアーのお客様は主にアメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、フランス、イタリアからだそうだ。これは30年前から変わっていないらしい。

国際観光に大きな変化があったのは2003年以降で「ビジット・ジャパン・キャンペーン」の影響が大きいとのこと。それ以来クルーズ船による日本観光が増加した。高齢者の健康管理の面で好ましい旅程となっているのが特徴だ。航路としては、神戸乗船、岡山、宇和島、屋久島、鹿児島、長崎、萩、広島、高松と廻って神戸に帰る。途中韓国のウルサンにも寄る。

こういう旅行には3Kが付き物だそうだ。すなわち、高学歴、高収入、高齢ということ。

知的的好奇心が旺盛で、鳥、花、樹木の名も大変な興味を持って聞かれる事もあるとか。こういう方面の勉強もおそろかには出来ないようだ。

特に印象に残るところとして、宇和島の「牛鬼」による歓迎イベントは高齢者が中心となっていること。長崎での市民による歓迎イベントは大変熱心で、いつも心を打たれるものがあるということ。

各地での重要観光スポットをパワーポイントを駆使して伝授していただいた。やさしい語り口は包み込むような安心感を与えてくれる。

ところで旅の最後にお客様から宮島が一番よかったという声が多くかえって来るそうだ。古谷さんが広島ガイドと知っての事か、あるいは客船からゴムボートで宮島に上陸するという参加型のイベントが強く印象に残るのか。またそれ以上の何かがあるのか？

全体を通して聞いていると、ガイドの話が一方的にならないように、古谷さんはよくお客さんにクイズを出されるようだ。

宮島のおみやげでお勧めなのはやはりもみじ饅頭で、安価で万人受けするそうだ。お客様にクイズの景品として食べていただくと、お土産にと、ついお店で手を伸ばされることも多いとか。地元にもお金を落としてもらう事を忘れない。気配りが感じられる。

また古谷さんは何度も出掛ける宮島の四季折々の変化をいまだに楽しみ飽きる事がないと言われる。

後で聞いた話によると、子供さんが小さい頃はそこの世話と同居する実のお母さんが引き受けられていたようだ。お母さんは娘の活躍を自分の事のように感じ古谷さんを快く送り出されたのではと察する。ご主人の協力も大事だと思う。思い切りガイドに専念できる精神的土台があった。それを強く感じた。

一つ一つの話に積み上げられた歴史が感じられた。素敵な宝物を惜しげもなく披露してもらった、そんな講演会でした。



講演者の古谷さん

## HIGAの活動報告 (2010年1月～7月)

- 1月17日 (日) 新人研修 (2009年度入会者の実地研修)  
2月11日 (木) 第5回世界史講座「西欧文化史—文学中心」  
2月20日 (土) 文化講演会「日本のここが面白い!～通訳ガイドよもやま話」  
3月7日 (日) 第3回学習会「人気キュレーター・マダム8と行く大原美術館 魅惑の旅」  
4月24日 (土) 2010年度第18回通常総会  
ホテルサンルートにて。ご来賓・会員合わせ出席者95名。  
中国運輸局企画観光部国際観光課課長 赤木 康秀様、及び  
広島県商工労働局産業振興部観光課課長 望月 徹様よりご挨拶を頂く。  
報告・審議が滞りなく行われ閉会。  
引き続き行われた懇親会で親睦を深めた。  
5月8日 (土) 第1回世界史講座「バルカン半島・小アジアの歴史1」  
6月6日 (日) 新人研修 (2010年度入会者の座学研修)  
6月13日 (日) 第1回学習会  
「鎌田七男先生に聞く—原爆被爆者の現況」  
「広島のおばあちゃん」—過去・現在・未来—  
6月16日 (水) IT講座第1回「ワードの基本を使ってチラシ作り」  
7月10日 (土) 第2回世界史講座「バルカン半島・小アジアの歴史2」

### 2009年度第3回学習会 3月7日(日)

#### 「人気キュレーター・マダム8と行く大原美術館 魅惑の旅」

竹内 拓 (仏語会員)

今回の学習会、実際には平和公園の祈念館で行われたのですが、本当に大原美術館に行ったような気分にさせてくれました。会場に入るとすぐに、カラーのきれいなパンフレットを頂き、わくわくしました。そして、会場内の画面に数々のスライドが映し出され、才色兼備のマダム8が解説してくれる、まさに魅惑の旅が始まったのです。

最初にツアーガイドの川村さんが、大原美術館の成り立ちについて解説してくれました。実業家と画家の2人の男の深い友情から生まれたということで、日本で最初の西洋絵画の美術館だったんですね。

次に、いよいよ本館の絵の紹介となりました。

- ① セガンティーニ：『アルプスの真昼』 柳田キュレーター  
「この画家は、パレットで色混ぜをしない、独自の色付けを行って風景を表現した。」
- ② モネ：『睡蓮』 吉岡キュレーター  
「モネは3次元のものを単に2次元に写しただけでなく、何よりも明るさを求めた。」
- ③ エル・グレコ：『受胎告知』 森本キュレーター  
「宗教画に親しむには作者と時代背景を知り、聖書の物語を知ることが大事。」
- ④ モディリアニ：『ジャンヌ・エビュテルヌの肖像』 和田キュレーター  
「映画にもなったドラマ性のある画家。S字型、楕円の線に特徴があった。」

ここで、工芸館に移動。河井寛次郎：『三色釉扁壺』の解説では作者が天から降りてきて、柏キュレーターに乗り移りました。「私は1890年、島根県安来町に生まれました…この壺は、土と釉薬と火がじかにぶつかりあって変身した無心の作品です。」

次は東洋館へ。藤坂キュレーターが中国の古い美術品について解説してくれました。「中国の甲骨文字等が展示されている。中国の遺跡に見られる首のない彫像は窃盗によるものなのだが、流れ流れて大原美術館にも展示されている。」

最後に分館へ。柳曾キュレーターは言います。「分館は最後に少しだけ訪れる人が多いがもったいない。美術館は前進していくものだという信念のもと、新しい作品がどんどん展示されている。」以上で今日のツアーは終わり。スタッフの方々、ユーモアにあふれた心憎い演出と細かな気配りをありがとうございました。今度は是非、この美術館を実際に訪れてみたいとなりました。



学習会の様子

◆◇◆ 2010年度第1回学習会 ◆◇◆

中原 青児（英語・仏語会員）



鎌田七男先生

6月13日平和公園内の平和祈念館にて2010年度第1回学習会が開かれ55名の会員が参加しました。広島大学原爆放射能医学研究所の元所長で、現在広島原爆養護ホーム倉掛のぞみ園園長の鎌田七男氏を講師にお招きして、「原爆被爆者の現況」「広島のおばあちゃん」-過去・現在・未来-と題された講義が開催されました。会員は鎌田氏に用意していただいた16ページに及ぶ講義のレジメを参照しながら、エネルギーな氏の講義に聞き入っていました。

被爆者がかかえる深刻な健康問題の一つに多重癌があります。被爆者はうけた放射線により幹細胞（色々な器官の組織に細胞を供給するもととなる母細胞）の遺伝子を傷つけられてしまいます。異常をおこした遺伝子が一定数に達すると癌が発生すると考えられていますが、被爆者においては放射線によってすでに一定数に近い数の遺伝子が異常をきたしているのです。普通の人より早く、いろいろな器官に癌ができるのです。これは癌の転移とは異なるメカニズムなのです。

氏が1977年に行われた実験もショッキングなものです。被爆者の血清の中に非被爆健康人のリンパ球を入れ培養すると、リンパ球の染色体に異常が発生します。つまり被爆後30年たっても血清中にDNAを傷つける因子があるのです。

また、氏は被爆者の心情についても語られました。最初は周りの人を助けられなかったという思いから罪の意識と後悔の念にとらわれるが、時がたつにつれ自分の代わりに死んでくれたという思いに変わり、死者への尊敬と畏敬の念に変わる。またアメリカという特定の国に対する恨みは時とともに超越し、自分の子や孫だけでなく世界の人々に同じ思いをして欲しくないという考えに進化しているのだそうです。

最後に氏は会員に対し「まず広島で何が起こったかを正確に伝えること、またそれだけでなく被爆者の心をよく勉強し、それを外国人に伝えて欲しい。」という期待の言葉を述べられ、貴重な講義は終了となりました。（予定時間を30分近くオーバーする情報量の多い講義でした。私のレポートはその一部に過ぎません。）



学習会の様子

タクシー・ハイヤー・バス・トラベルは...

ISO9001:2000 認証取得

**つばめ交通株式会社**

〒732-006 広島市東区牛田本町4-5-10

配車センター 082-221-1955

<http://www.tsubame.co.jp/>



**藤井循環器内科**

英語対応

宇品3丁目電停前

診療科目

内科: 循環器・消化器(胃カメラ)・呼吸器, 放射線科(マルチスライスCT)

〒734-0004 広島市南区宇品神田2-14-24

☎(082)252-0133

## 2009 年度 新人研修（実地）

武田 智実（英語会員）

1月17日、平和公園、広島城、宮島において新人研修が行われました。今回の実地研修は参加型ということで、指示書に従い一日のツアーを我々、新人会員が分担して行うという設定のものでした。車中などを含む三ヶ所いずれかの場所を予め指定され、スケジュール通りガイド出来る様に準備する、という指示をいただきました。

当日は、事務局の方々3名と我々新人11名が参加しました。朝8時50分に広島駅に集合し、それぞれの担当パートを伝えられ、ほぼ全てを任されて行われました。新人会員は私もそうですが、とても緊張していました。

まず、広島駅から市内電車で原爆ドームへ。平和公園内では、例えば、時々立ち止まってツアー客を確認する、見られないスポットがあるかどうか事前に必ず確認しておくなど、事務局の方から具体的なアドバイスをいただきました。その後、広島城までバスで移動。バス内での注意事項も忘れないうちにメモをとりました。

広島城から宮島までバスで移動し、そこからフェリーに乗り宮島へ。それぞれの担当の方の説明を聞き、見習いたい部分や自分だったらどうするかを考えながらの行程でした。昼食をレストランはやしでいただき、自分の担当パートである大鳥居や本殿の番になりました。それまで調べてきた事を何とか説明しようと周囲に気を配る余裕も無く話していた様な気がします。声も小さかった様です。反省。その後、本殿、大願寺、千畳閣等を担当の方々がガイドして宮島を後にし、バスで広島駅まで戻りました。

一人ひとりに事務局の方からフィードバックをしていただき、帰りの車中でも様々なアドバイスを受けました。自分たちでガイドをする様に、という指示のもと、とてもプレッシャーを感じましたが、準備期間そして実際にやってみて多くの事を得られたと思います。この日の為の準備等、事務局の方々には本当に感謝致します。ありがとうございました。



新人研修実地

## 2010 年度 新人研修（座学）

渡橋 佳子（英語会員）

6月6日、快晴の日曜日に国際会議場の研修室にて、新人研修が行われました。今年は例年より多い18名の新人会員が、事務局より3名を講師とし、通訳ガイドとしての一步を踏み出しました。参加前は長いと感じた3時間の座学は、眠くなるどころか、ギンギンの集中力を保ったまま、あっという間に終わってしまいました。

研修内容は「HIGAの成り立ち」、「ガイドとしての心構えと仕事の流れ」、「HIGAでの活動」と進んでいきましたが、全体を通して講師の方々の「強いプロ意識」を感じました。ガイド試験に合格したという事実に浮かれがちな私たち新人に、ガイドの仕事がいかに大変かを、仲間として本当に親身になって指導してくださいました。後半のワークショップでは、エージェントからの手配書を受けた想定で、確認事項を全員で挙げていきましたが、私たち新人が一生懸命考えた答えは講師の方々の意図とは違う場合も多く、日本人同士で意思疎通ができないのに外国人旅行者の要望に応えられるのかと不安に感じました。私たちは皆、謙虚に、責任感と危機感を持って先輩たちの築いてこられた実績を汚さぬよう、人間的にも成長する必要があると思いました。

新人会員の「もっと聞きたい!」という空気に包まれたまま、最後の質疑応答も瞬間に終わりましたが、殆どの参加者は自分の考えの甘さに気づき、来年1月のジャパンガイドデーに向けて志を新たにしたいと思います。貴重な時間とエネルギーを惜しみなく私たちのために与えて下さった講師の皆様に心から感謝したいと思います。そして、私たちの中から素晴らしいガイドが多く誕生する事で、いつか恩返しができると思っています。本当にありがとうございました。

## 仕事の現場から①

### 直島発着早回り弾丸ツアー？ 城野 由美子（英語会員）

直島は海外からの観光客に人気のスポットで、連泊組も多い。そんな連泊中の若いカップルのお客様を直島から高松に渡ってガイドするお仕事を受けた。朝9時頃の船で高松に行き、車で金刀比羅宮、イサム・ノグチ庭園美術館、栗林公園を回って、3時半頃の船で直島に戻るという行程だった。でも、これって可能…？高松に着くと既に10時、各目的地間の移動時間を考えると、かなりきつい。金毘羅さんの階段、何段上れるかしらん？

そんなことを思いながら、いざ、出発。若いご夫婦はこの旅行がハネムーンで、あまり人が行かない所に行ってみたかったとのこと。面白い所ばかりですよ、でも、少し時間的にきついので…と説明をして、納得してもらった。金刀比羅では、土産物屋が並ぶ階段をひたすら上るだけではすまないだろうから、大門くらいまでしか行けないだろうと思ったが、途中、箸の店でお気に入りを見つけ、大門を過ぎ、書院まで上り、見事に運転手さん指定の時間に戻った。お二人は若く、足も長くて速いのだ。昼食はコンビニで調達して、車中食となったが、非常に楽しげなご様子だった。イサム・ノグチ庭園美術館には滑り込みで到着。本当はもう少しゆっくりなさりたかったのだろうが、早めに切り上げてくださったのが有難かった。栗林公園でもコースを逆回りして、絶景スポット？のみのご案内となった。

帰りの船中、とても楽しかった、いい思い出ができたと言われた時、こちらこそ、お二人と良い時間を共有できたと思えた。ご希望はできるだけ、かなえたい。時間制限とどう折り合いをつけるか、何を最優先にするかがいつも難しい。



## 仕事の現場から②



### 心に残る出会い 伊東 正子（英語会員）

ガイドの大きな楽しみの一つは、様々な方に会っていろいろな話を聞けること。その国の知らないことを聞かせていただけるのだ。そしてまた、日本という国がどのように見られているのかの一端も知ることができる。最近、移動中に日本の本を読むという3人の方に出会った。村上春樹の「1Q84」、桐野夏生の「柔らかな頬」、小川洋子の「博士の愛した数式」の3冊である。海外でよく知られている村上春樹は別として、こうした現代の作家の本が英訳され、とても面白いと好評なのはうれしかった。

これまでのお客様の中の最高齢は息子さんご夫妻とツアーに参加された91歳の英国女性。お嫁さんにそと年齢を尋ねると「91歳、元気でしょう。」と言われ、「本当に！」と応じる。ほんの心持ち歩く速度を緩めるだけでちゃんとついてきて下さる。この年齢でイギリスからの長旅を楽しめるなんてすばらしい。ぜひともあやかりたいと思い、お別れの握手にはつい力がこもってしまった。

高校卒業時、あるいはその国の節目と言われる年齢になったお祝いとしての家族旅行も多い。家族全員であったり、父と子、母と子、あるいは祖母と孫という組み合わせだったりする。両親と子ども2人の御家族をしまなみ海道の耕三寺にご案内した時のこと。成功した実業家が苦労した母への感謝の気持ちで建てたお寺で母親の遺骨が祀られているとの説明に、ご主人から「父親は？」との質問。父親の立場としては、どうして母親だけに感謝なのか、と思われたのかもしれない。子どもが成長すると家族全員での旅行はむずかしくなるからと今回の旅行をととても楽しんでおられるすてきなご家族に、わが身を振り返させられた。次はどんな方々に巡り合えるのか楽しみである。



広島平和記念公園対岸。元安橋たもとのオープンカフェ

本格イタリアンが味わえる店

**Caffè Ponte**  
カフェ ポンテ

【住 所】広島市中区大手町1丁目9-21  
【予約専用電話】070-5679-9134  
【営業時間】7:30～22:00 年中無休

## 【ご協力ありがとうございます】

HIGA 賛助会員ご入会の皆様 (2010年7月現在、順不同、敬称略)

### 団体会員

広島紅葉ライオンズクラブ  
 広島商工会議所  
 JTB 協定旅館ホテル連盟広島支部  
 つばめ交通(株)  
 (有)はやし  
 (株)セイエル  
 広島トヨペット(株)  
 (株)藤い屋  
 (社)広島県観光連盟  
 カフェ ポンテ  
 藤井循環器内科

### 個人会員

市川 太一	くらわんか	山本 光子
河井 克行	藤井 倫子	海生 直人
延本 真栄子	先花 智恵子	三段峡ホテル
清水 考子	吉井 敏弘	龍山 壬生子
田島 謙治	小辻 一洋	ぎやらりい宮郷
畑 博行	花やしき	河井 あんり
ことば工房	古谷 敏明	三上 貴教
藤達 義明		

賛助会員としてご協力くださる団体、個人の方を募集しています。ぜひこの機会にご入会をご検討くださるようお願い致します。年会費は一口につき団体会員2万円、個人会員5千円です。団体会員には、HIGA ニュースに広告掲載の特典があります。お申し込み、お問い合わせは、当協会事務局 082-245-8346(月～金、11～16時)まで。

本紙へのご感想・ご意見をお寄せください。HIGA 事務局へ郵便・電話・FAX または E メールでどうぞ。  
 Eメール: higa@urban.ne.jp ホームページ: http://www.j-higa.net

### 【編集後記】

居間の前の「緑のカーテン」が元気いっぱい成長している。アサガオは花を咲かせ始めたし、ゴーヤも3センチほどに成長した。庭の雑草と格闘する日々は続くが、花を愛で、収穫を喜びながらこの季節を乗り切りたい。(bunta)

留学に関心のない大学生が増加中。ハーバード大学に日本人学生は一ケタという。我が息子にしても居心地がいいのか日本大好き。外国には関心なし。これでいいのか日本。草食系男子を憂う、代わりに留学したい母の呟き。(kitty)

iTune で初めて音楽ファイルを購入した。家でお茶を飲みながら、こんなに簡単に手にできるものなのか…。ツイッターからも iPad から置き去りにされているが、ちょっとリベンジできたかなと自己満足。(kirin)

インターネットグループがグルメレポートのブログを開設。広島を訪れる皆さんへの情報としてお役に立つでしょう。瀬戸内の夏の味覚と言えば穴子や蛸。最近は外国のお客様も召し上がるようになり、広島の食いしんぼとしてはうれしい。(銀)

サッカーW杯。睡眠不足でのTV観戦も、その甲斐あり。選手はもちろん、審判にも虜(とりこ)。運動量、視野の広さ、動体視力、一瞬の判断力。誤審は映像となり永遠に叩かれる。あのガイディングも確か映像に・・・(汗)。(SF)

宮島銘菓

大正十四年創業



宮島 藤い屋

広島県廿日市市宮島町 1129  
 TEL (0829) 44-2221  
<http://www.fujiiya.co.jp>



直売店

宮島本店・広島駅アッセ店・広島駅新幹線  
 名店街店・そごう広島店・そごう呉店・天  
 満屋アルパーク店・広島空港天満屋店・広  
 島駅前福屋店・呉駅クレスト店・駅売店  
 kiosk

焼がきにこだわって六十年  
 宮島屈指の歴史を誇る

<http://www.yakigaki-no-hayashi.co.jp/>

焼がきの  
 はやし

